

様式（表面）

雇 入 れ
離 職

に係る外国人雇用状況通知書

フリガナ（カタカナ）			
①外国人の氏名 （ローマ字）	姓	名	ミドルネーム
②①の者の在留資格		③①の者の在留期間 （期限） （西暦）	年 月 日 まで
④①の者の生年月日 （西暦）	年 月 日	⑤①の者の性別	1 男 ・ 2 女
⑥①の者の国籍・地 域		⑦①の者の資格外 活動許可の有無	1 有 ・ 2 無

雇入れ年月日
（西暦）

年 月 日

離職年月日
（西暦）

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律施行令第5条の
規定により上記のとおり通知する。

年 月 日

事業所の名称、所在地、 電話番号等	雇入れ又は離職に係る事業所	雇用保険適用事業所番号
	(名称)	□□□□ - □□□□□□ - □
	(所在地)	TEL
任命権者の官職名	(印)	

公共職業安定所長 殿

様式（裏面）

注意

- 1 雇入れに係る外国人雇用状況通知書として使用する場合の注意
 - (1) 表面標題中「離職」の文字を抹消すること。
 - (2) ①欄には、外国人の氏名を在留カードどおりにローマ字で記載し、フリガナをカタカナで記載すること（ミドルネームがない場合は姓名のみ記載）。
 - (3) ②～④、⑥欄には、該当事項を記載すること。なお、②欄には、①の者が特定技能の在留資格を有する者である場合には、法務大臣が①の者について指定する特定産業分野を、①の者が特定活動の在留資格を有する者である場合には、法務大臣が①の者について特に指定する活動を、該当事項に加えて括弧書で記載すること（「特定技能（介護）」、「特定活動（ワーキングホリデー）」等）。
 - (4) ⑤欄には、①の者の性別について、該当するものの番号を○で囲むこと。
 - (5) ⑦欄には、①の者が資格外活動の許可（出入国管理及び難民認定法第19条第2項の許可）を受けべき者（「留学」の在留資格の者等）である場合に、当該許可の有無について、該当するものの番号を○で囲むこと。
 - (6) 表面中部に雇入れ年月日を記載すること。
 - (7) 通知の対象となる外国人が雇用保険の被保険者である場合にあっては、雇用保険被保険者資格取得届に、②、③、⑥、⑦欄に記載すべき事項を記載し、雇入れに係る外国人雇用状況の通知とすることができる。
- 2 離職に係る外国人雇用状況通知書として使用する場合の注意
 - (1) 表面標題中「雇入れ」の文字を抹消すること。
 - (2) ①～⑥欄について、1と同様とすること。
 - (3) ⑦欄は記載不要であること。
 - (4) 表面中部に離職年月日を記載すること。
 - (5) 通知の対象となる外国人が雇用保険の被保険者である場合にあっては、雇用保険被保険者資格喪失届に、②、③、⑥欄に記載すべき事項を記載し、離職に係る外国人雇用状況の通知とすることができる。
- 3 雇入れ及び離職の双方に係る外国人雇用状況通知書として使用する場合の注意
 - (1) ①～⑦欄について、1と同様とすること。
 - (2) 表面中部に雇入れ年月日及び離職年月日を記載すること。
 - (3) その他1及び2に従うこと。
- 4 同一の者について、複数回にわたり雇入れ又は離職が生じた場合は、表面中部にそれぞれの雇入れ年月日又は離職年月日を記載すること。
- 5 この様式は、通知の対象となる外国人1人につき1枚を使用すること。
- 6 表面の記載に当たっては、在留カードを所持する者については①～⑦欄は在留カードにより確認し、記載することとし、在留カードを所持しない者については①～⑥欄は旅券又は在留資格証明書、⑦欄は旅券、在留資格証明書、資格外活動許可書又は就労資格証明書により確認し、記載すること。また、特定技能の在留資格を有する者については法務大臣が指定する特定産業分野を、特定活動の在留資格を有する者については法務大臣が特に指定する活動を、指定書により確認し、記載すること。
- 7 事業所の名称、所在地、電話番号等欄には、雇入れ又は離職に係る事業所の名称、所在地、電話番号、雇用保険適用事業所番号を記載すること。
- 8 雇入れに係る通知にあっては翌月の10日までに、離職に係る通知にあってはその翌日から起算して10日以内に、事業所の所在地を管轄する公共職業安定所の長に通知すること。
- 9 本通知は電子申請による手続も可能であること。